

税の作文紹介

昨年11月22日（水）に「中学生の税の作文並びに税の標語」の表彰式で表彰された税の作文を随時、紹介します。（受賞者は広報ひろがわ1月号で紹介しています。）



■善意の税金

耐久中学校 2年 赤土 麗人

みなさん「子供医療費助成制度」という言葉を知っていますか。僕の住んでいる町では、僕が小さい頃からこの制度があり、当たり前のように利用しています。この「子供医療費助成制度」とは、子育て支援の一環で、この町に居住する健康保険の加入者で、義務教育終了までの子供ならば、入院・通院などの保険診療分の自己負担額を全額助成してくれるという制度です。僕はいつもお金を払わないのが当たり前で、その意味や理由に

ついては全く理解していませんでした。

中学に入って税金の勉強をするようになり、初めてこれも税金のお陰なんだと気付かされました。家でこの話をすると、母が、「昔の子供は健康だったとかよく言う人がいるけれど、確かに昔の子供の方が外で遊んで健康的だったかもしれない。でも、昔は医療費がかかるから、軽い風邪や鼻炎なんかでは病院に行かなかった。お金もかかるしね。でも、今はこういう制度のお陰で、みんなが病院に行ける。有難いよね。」と言った。

僕の弟は、アレルギーとぜんそくがあり、毎月必ず病院にかかっている。発作が起こると入院することもあり、一度や二度では済まない。だから母は、この制度は本当に助かるいつも言っている。

だが、僕の中で一つ疑問がわいた。それはいくら税金とはいえ、

底なしではないではないかということだ。医療費がかからない、「無料」だということは、そんなに悪くない人も、「無料」というだけですぐに病院に行ったりする人も増えるわけで、医療費が今まで以上に増えることになってしまう。安心して子供がみんな平等に医療が受けられることはいいいことだが、税金という名の「善意」が意味を無くしてしまうかもしれない。

僕たちは節度と感謝を持ってそれを利用しなければいけない。今、学校に通えていることや教科書を使って勉強ができている事と同じように、全て周りの大人の人が納めてくれている「善意」の税金によって成り立っている事を忘れてはならないのだ。

少子高齢化がどんどん進む中、医療費がどんどん増加の一途を辿っていく。こんな時代だからこそ、子供は国の宝である。僕たち

ということを知りませんでした。

ふるさと納税は、納税義務のある税金とは違い地方自治体への寄付を通じて地域創生に参加できます。また、自分の生まれた町だけでなく、お世話になった地域や応援したい地方など自分で好きな自治体を選んで寄付金を贈ることができるのが特徴です。

このふるさと納税の制度によって集められたお金は、多くの地域で災害の復旧や自然をとりもどす事業、地域の活性化のために活用されています。和歌山県の田辺市では、世界遺産に登録されている「熊野古道」をアピールして交流人口を増やそうと「熊野古道ウォーク」を体験する「熊野古道環境保全ウォーク」を開催するなど自然の中で育まれた歴史や文化を大切にしまちづくりを進め、未来へ継承するための活動にふるさと納税を活用しています。また、熊本地震では、茨城県境町が被災地に代わって寄付申込みを受け付けるなどして被災自治体に迅速な寄付金受け渡しができたことにより、寄付金で仮設住宅を設置するなど復興にふるさと納税が役立てられました。

ふるさと納税は、納税者が寄附



■大切な税金

耐久中学校 3年 尾原 美咲

私達の生活にはたくさんの税金が使われています。学校や体育館などの施設、道路や公園等の維持

や修理にかかる費用。義務教育の間に使用する教科書代。病院での医療費などたくさんの税金が私達の生活を支えてくれています。みんなが働いて収めた税金がみんなの生活を支えているのです。

私が特に印象に残ったのは医療費です。私のおばあちゃんは3年前、心臓のバイパス手術という大変大きな手術をしました。時間は6時間もかかり、先生もたくさんついてくれたので手術でした。ひざにある血管をまず一本とり出します。そして胸のところを二十センチ程切り、肋骨も切って心臓を取り出し、人工の心臓につけ替え、その間に心臓に足から取ってきた血管をつなぎ心臓が良く働くように太くて元気な血管につけ替え、元に戻すという大変むずかしい手術です。

お母さんが言うには支払ったのは食事代も含めて二十万円程。でも実際にかかった手術代金は四百万円程もするそうです。これも皆の収めてくれている健康保険税のおかげでできる手術で自分で支払うとしたら大変な金額です。私たちが病気やケガで行く病院でも治療費を払わなくても診てもらえます。これも税金のおかげです。



■税金について

耐久中学校 3年 上田 歩実

私は、最近いろいろなテレビ番組でよくこの言葉を耳にします。しかし、テレビでこの制度がとりあげられるようになるまで私は「ふるさと納税」という制度がある

すべての税金には大切な意味のあるものばかりで私たちの暮らしの中ではなくてはならないものだと思います。

将来私が大人になった時にどのようななかかわりかたであるかはわかりませんが国民としての責任、県民としての責任、町民としての責任、大人としての責任がはたせるようになりたいと思いました。

一生懸命働いて税金が納められるような、そして大切に使うことができるように選挙にも考えを持って参加できるように大人になりたいと思います。生活の中で税の大切さを感じながら広川町、和歌山県、日本が住みやすく明るく元気になってくれればよいなと思いました。

